

子どもの本だな 19

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

100まんびきのねこ

ワンダ・ガアグ ぶん・え いしいももこ やく

(福音館書店)

うちに猫が一匹いたら、と願うおばあさんのために、おじいさんは猫を探しに行きました。見渡す限り猫でいっぱいの丘に着き、一番可愛い猫を選ぼうと白い猫を拾うと、今度は白黒の猫も可愛くてそれも拾いました。灰色の猫に真っ黒い猫と、あたりを見回す度にきれいな猫が見つかり、みんな連れて帰りました。おばあさんはびっくりし、どの猫をうちに置くか、猫たちに決めさせることにしました。誰が一番きれいかときかれた猫たちは、大げんかを始めました。

子どもたちは、野原中の草を食べつくし水を飲みほす猫の行列に驚き、リズムのある言葉を楽しみます。猫たちのけんかの間中、草の陰で震えていたやせっぽちの子猫だけが残り、丸々と太る結末に子どもたちは満足です。八十年以上読み継がれている白黒の絵本。読んでもらえば4歳くらいから。(片木)

こぶたのピクルス

小風 さち 文 夏目 ちさ 絵 (福音館書店)

ピクルスはこぶたの男の子。ある日、お母さんに頼まれて市場に行き、卵をかごにいっぱい買いました。帰り道、卵を割らないよう「ぬきあし、さしあし、卵あし」で歩いていました。ゆで卵、目玉焼き、オムレツ…お母さんの卵料理を次々と思いつかべていたピクルスは、「とろーりとろーとの卵スープ」のことを考えたたん、「ブラボー！」と叫んでピョンピョンとびはねながら拍手してしまいました。家についてみると、卵はどれもひびだらけ。ところがお母さんは、大きなボールに卵を割り入れ、ちゃっちゃっちゃと混ぜて黄色い卵クッキーをたくさん作ってくれました。

他にも、海に出かける前の晩、こっそり海水パンツや足ひれ、ゴーグルをつけて準備運動をする「ピクルスの海水パンツ」など、どの子どももやりそうなことがユーモアたっぷりに描かれたお話が4編。読んでもらえば5歳くらいから楽しめるでしょう。(池田)

5月	6月	5月・6月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
14日	11日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
21日	18日	岩見構下 公民館 10:30~10:50	岩見構上 公会堂 11:00~11:20	原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
28日	25日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		吉福 公民館 15:30~15:50	太子 ニュータウン 公民館 16:00~16:30

お知らせ

毎週土曜日に「おはなしの時間」を開いています。
4歳~2年生 11:00~
3年生~中3 11:30~
5月のおはなしは
こすずめのぼうけん
おかあさんのたんじょう日
いたずらおばけ
などを予定しています。
詳しくはプログラムをご覧ください。

『パリの国連で夢を食う。』

川内 有緒 著

イースト・プレス 315 頁 2014 年 9 月刊 1,500 円 (請求記号) 329.3

倍率二千倍といわれる国連正規職員に運よく採用された著者のパリでの五年半を綴ったエッセイ。

東京で激務に追われていた三十一歳のある夜、国連から一通のメールが届く。書類審査に通ったので面接を受けに来てほしいというものだった。二年前に軽い気持ちで国連の空きポストに応募したことをすっかり忘れていた著者は、旅費全て国連持ちの言葉に旅行気分パリへ出発。採用されると思わず、二度と来ないだろうパリを楽しんだ半年後、著者はパリの国連にいた。

ユーゴ紛争を生き抜いたセルビア人ボスが率いる部署で、著者は教育関係のリサーチセクターを担当し、プロジェクトを調整した。皆究極の個人主義でマペースな職場だが、終業時間はきっちり守り、一分過ぎて残っていると「日本人は働き者だなあ」と笑って追い払われる。非正規職員も多く給料も格安のため転職する同僚も多い。仕事を離れると、大学時代の後輩や個性豊かな芸術家たちが集まり活動するスクワットへ遊びに行つて交流を深めた。仕事や友人たちに恵まれながらも、「私はここで何がしたかったのか」という思いが徐々に膨らみ、ついに国連を去る決断をする。

国連の仕事についての詳細はないが、ちよつとした舞台裏や個性豊かな仲間たちとの日常がユーモアあふれる文章で綴られ、国連の素顔が垣間見える。優雅には程遠い多難なパリの生活を楽しみ、夢を追い自由に生きるアーティストや日本人の友人との交流の中で自分の生き方を見つめ直し、好奇心と身軽さでいとも簡単に世界を飛び回る著者の姿に感心する。夢を持ち人生を楽しもうと思わせる一冊だ。

(池之上)

5月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

日曜日の絵本の時間

5月17日

6月21日

おはなしの部屋

11:00~

2~3歳の子どもと保護者

カレンダーの×印は休館日です。

開館は10時~18時まで。

金曜日は20時まで開館しています。

地下水

毎日25mを十往復泳ぐという利用者Mさんに憧れ、ゆつくり長く泳げるようになりたいと水泳教室に入った半年。「クロールで25m」だった当初の目標は、すぐに、「沈まないこと」、「息継ぎができるようになること」に変わった。キック、腕のかき、姿勢、どこかで指導を受けると、自分のバランスが崩れ立ち止まってしまう。

図書館には、まさに私の目指すところそのものの本があるではないか、と『ゆつくり長く泳ぎたい!超基本編』を持ち帰り、わくわくしながら読んで。図の動きを鏡の前で毎晩練習し、教室に臨んだ。水中での動きが、陸上の練習と同じなのか分からない。おまけに指導員の教える型とは違っており、矯正される。本で研究したぶん泳ぎが変わるのではという期待は見事につぶれた。

最近、浮いている、沈みつつあるという自分の状態もわかるようになり、25mがなんとか泳げるようになった。本に書いてあることも、指導員の説明も、今になるとしつくり自分のなかに入り込む。図書館の本のおかげで泳げるようになった、と書ければいいが、私に必要なのは練習で感覚を体に覚えさせること。本は復習用でいい。

(竹内)

